

ザ・ジャーナル!!

Vol.2 No.4

冬号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

CONTENTS

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2.3

●淳ちゃんのワンポイント手話 ——— 3

ジャストナウ ●呼吸器系特集 ——— 4.5

シリーズ ●岡山医療センター物語 第8話「海外派遣報告」 ——— 6.7

●はやり病にご用心 ——— 7

●病院活動案内 ——— 8



写真 | クリスマスコンサート開催
(2007.12.20)

地域医療支援病院

岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして
—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

機能評価月間
実施中!



This is our センター/TOPICS



年頭のごあいさつ 院長 青山 興司



新春のお喜び申し上げます。

独立行政法人国立病院機構岡山医療センターとなり、すでに4年が過ぎようとしています。この4年間は私だけでなく病院にとっても激動の4年でした。

常に頭に重くのしかかっていたのは350億円という巨額な借金返済をしなごらの病院運営でした。職員一同の絶大な協力と努力により、350億円あった借金は4年間で280億円まで減少しました。今後数年間は更に20億円程度の返済が必要ですがどうかその目処が立った事は大変嬉しく思っております。

本院にとって昨年もいろいろ新しい事がありました。

病院機能上の資格取得に関して、昨年5月に日本病院機能評価機構よりバージョン5の認定を受けました。6月に7対1看護基準取得を取得しました。10月に岡山県地域医療支援病院に認定されました。更に本年2月に岡山県地方がん診療連携拠点病院に認定されました。これらの機能を付与されたからには、よりその認定に相応しい病院になるよう更なる努力が必要と考えています。

設備面では1月に64列CT、3月に2門血管造影装置を導入しました。3月に学生120名増員のための看護学校の増築が完成致しました。7月に障害者用屋根付き駐車場と障害者も使用可能な屋外トイレを新設しました。8月に産婦人科病棟にデイルーム増築、9月にMRI(1.5T)の導入を行ないました。病院の発展のためには更なる設備投資も必要と考えております。

職員教育研修では、院長参加の1泊2日の宿泊研修を主に新人看護師、研修医を対象に8回行いました。のべ参加人数はほぼ400名でした。職員の教育・研修は重要課題と考えています。待望の24時間いつでも利用出来る職員のための研修センターの開設に向けて、やっと準備が整いました。静脈穿針、中心静脈穿針、気管内挿管、腰椎穿針、眼底検査、耳鏡検査、気管支鏡検査、腹腔鏡検査、心肺蘇生手技、導尿手技、吸引手技などほとんどの検査手技がトレーニング出来るセンターです。潜在女性医師、潜在看護師の再教育も含め、地域の先生、院外の看護師の方々にも

開放する予定です。

昨年新たに企画した病院フェスタ=オープンホスピタル=が11月に成功裏に終わりました。この企画は、地域の人たち(主な対象は中学・高校生)に病院の全てを見て頂こうというものです。手術体験、検査体験、院長体験、患者体験、メタボ指導、心肺蘇生指導など病院機能の多くを公開しました。また、地域の人たちによる特産物販売、物品バザー、プロバレーボールチーム=シーガルズ=との親善試合、職員による食品バザーなどの楽しい催物も行ないました。職員300名がボランティアで運営しましたが、外部から2000名の参加があり、大いに盛り上がりました。地域の人たちに共に喜んでもらえ、誇りに思っている病院にしたいと思ひます。

職員が楽しく働く事が私の究極の病院運営の目標です。そのため1年間を通して、常に何かの行事を行ないました。1月の御用始め会、4月の創立記念日(全員掃除日)、5月の院内発表会、8月の夏祭り、9月のボーリング大会、11月の病院フェスタ、12月の忘年会、2月の機能評価月間です。特に忘年会は、職員の約半数が参加してホテルグランヴィアにて盛大に楽しく行なわれました。忙しい病院勤務の中で、少しでも職員がホットする時間を持てればと思ひます。今年は6月頃運動会が出来れば良いな、と思っております。

本年も本院の理念である「人に優しい病院を目指して」を遂行すべく、患者様に優しくは勿論ですが、働く人、地域の人に優しい病院を目指して行きたいと思ひます。

具体的には、①小児医療の充実のために、小児病棟5対1看護体制の確立、②働く女性のサポートのために病児保育、24時間保育体制の推進、③職員の教育・研修に重点をおき、認定看護師の育成、研修センターの充実などを行いたいと考えております。

また、従来から計画中の職員宿舎(70戸用)、看護学生用宿舎(60戸用)は20年度末には完成の予定です。

本年もよろしくお願ひ致します。

h o s p i t a l !

淳ちゃんのワンポイント手話



手話に チャレンジ!

病院で役立つ
一口手話

胃の検査の予約を取ります。



胃

右手の親指と人差し指で腹に胃の形を描く。



検査

折り曲げた右手2指を目の前で左右に往復させる。



予約

小指をからめる。

新ドクターズカー配備

副統括診療部長 佐藤 利雄

当院では、昭和55年からドクターズカー1号(愛育号)を配備して、未熟児(新生児)のNICUへの搬送収容を開始しました。昭和63年からはドクターズカー2号(救急車スタイル)となり心筋梗塞などの循環器疾患の救急要請にも出向いて対応していました。近年ドクターズカーの出動件数が増加していましたが、今年1月下旬からドクターズカー3号(救急車)が加わり2台の救急車による運用となりました。これにより生命維持装置が付いた患者様の転院にもよりスムーズな対応が可能になります。診療の頼りになる助っ人です。よろしくお願い致します。

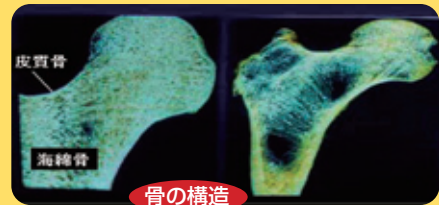


Oniビジョン/健康教室から「骨について」

10A病棟看護師 郷原 彩美



骨の構造は大きく「皮質骨」と「海面骨」に分けられます。骨の働きとして、臓器を守る働き、体の構造を支える働き、カルシウムを蓄える働き、血液を造る働きがあります。骨は海面骨で絶えず作りかえられています。これを骨代謝といい、このバランスが崩れていくと、骨粗鬆症になってしまいます。骨粗鬆症とは、骨がスカスカになった状態のことを言います。骨粗鬆症は、閉経後の女性や、高齢者の男性に多く見られますが、若い人でも、無理なダイエットなどによっても、骨粗鬆症になる場合もあります。骨粗鬆症の予防法として、適度な運動と、バランスの取れた食生活と、適度な日光浴を行なうことが大切です。最後に、骨を丈夫にし、骨粗鬆症を予防することが、ほとんどの生活習慣病を予防することに繋がります。今回、説明させていただいた内容を参考にして、健康な骨づくりを心がけて行きましょう。



正常な骨



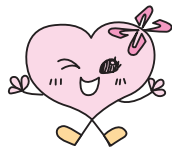
骨粗しょう症の骨

ボランティア室 便り

今年度もやってきました ~クリスマスコンサート開催~



恒例のクリスマスコンサートが、12月20日の夕、2階外来ロビーで開催されました。今回は、ヨーロッパ公演の経験もある、岡山バッハカンタータ協会のコーラスメンバー25名の御協力を得、盛大な『クリスマスの夕べ』となりました。ちなみに、当院統括診療部長である東 良平先生もメンバーの一人で、黒のタキシードに身を包み、颯爽と登場されました。クリスマスにちなんだ名曲を多数披露いただいただけでなく、親しみやすく耳慣れたクリスマスキャロルの数曲を、メンバーの皆様が会場の患者様、そのご家族、職員の間にはいって一緒に歌ってくださいました。わずか1時間ではありましたが、暖かく幸福感をたたえた歌声の余韻がいつまでも耳に残り、束の間の安らぎと癒しを共有できたのではないかと思います。(沖田記)



わが病院の“光るワザ”

呼吸器系特集

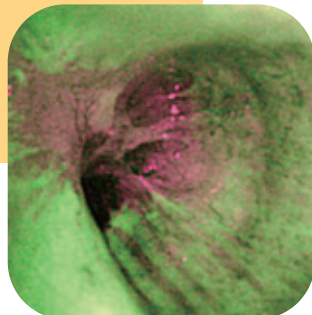
呼吸器科

診療部長 米井 敏郎

呼吸器科は現在、常勤医師4名（日本呼吸器学会専門医／指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医／指導医、日本臨床腫瘍学会専門医、日本アレルギー学会専門医／指導医、等の資格を保有）と呼吸器科レジデント3名、計7名にて日々の診療にあたっています。呼吸により肺は24時間、外界と接する唯一の臓器であり、したがって呼吸によって吸入したものにより様々な疾患を生じます。その点が他臓器と大きく異なります。男性の肺がんの70%は喫煙と関係があるとされ、肺炎は病原性微生物の吸入、気管支喘息や間質性肺炎（肺線維症）といった良性疾患も長年の周りの呼吸環境と密接な関係があり、人口の6%前後の罹患率とされる慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）は喫煙しなければ殆ど起こらない疾患です。また、切除不能の肺がんに対しては、初期治



通常の気管支鏡による
気管支の内腔像



同部位の蛍光内視鏡
による内腔像
緑色の部分が正常の粘膜
病変部には色調の変化が
みられる

療として可能な限り化学療法と放射線療法を組み合わせた集学的治療を行い、病勢がコントロールできれば外来化学療法に移行しています。そして、細菌性肺炎や間質性肺炎により急性呼吸不全を呈して緊急入院となる症例も多く人工呼吸管理を含めた集中治療を行っております。呼吸器疾患の診断には必須の気管支鏡検査は年間200件程度行っており、昨年度から気管支粘膜のより詳細な観察ができる蛍光内視鏡および狭帯域光内視鏡を導入しました。これらにより今まで以上に中枢側の早期がんの発見にも力をいれています。今後、高齢化社会を迎え禁煙対策、アスベスト対策などが不十分であった日本では、呼吸器疾患は増加の一途をたどることが予想され、日々修練を積み患者さん一人一人に合わせた医療を提供していきたいと考えています。

呼吸器外科

医長 安藤 陽夫

呼吸器外科とは、心臓・血管外科手術を除く胸部外科手術を行うものです。すなわち、肺癌・肺腫瘍の手術、自然気胸（肺のパンク）の手術、難治性気胸（肺疾患のある方の治りにくい肺のパンク）・縦隔腫瘍（胸腺腫瘍・神経腫瘍）・悪性胸膜中皮腫・膿胸（胸の中の化膿）・肺感染症に対する手術などを行います。呼吸器疾患の診療にあたっては、当院呼吸器科の優秀なスタッフとの緊密な連携のもとに施行しており、おかげさまで手術件数は着実に増加しております。現在の呼吸器外科のスタッフは、呼吸器外科専門医の資格を持った3人からなっており、胸部の内視鏡下手術（胸腔鏡下手術・縦隔鏡手術）を積極的に施行す

N O

W !



るなど患者さんの体にやさしい手術を目指しています。中でも肺癌に対する手術が最も多く、昨年1年間に当科で施行した肺癌に対する手術は71例と年々増加してきており、そのうち内視鏡下手術の施行例も80%と増加しています。また、これまでに呼吸器外科手術、特に内視鏡下手術の新しい手術方法の開発、

内視鏡下手術の新しい手術器械の開発に取り組み、誌上に発表して高い評価を受けています。今後とも、患者さんの体にやさしい手術を実現していくべく、新しい手術器械の開発・新しい手術方法の開発に努めていきたいと考えています。



私たちは進化しつづけます

RST 活動紹介 重症集中ケア認定看護師 福光 明美 (Respiratory Support Team:呼吸サポートチーム)

近年、呼吸リスクの高い患者様が増加し、一般病棟においても人工呼吸管理を行うことも少なくありません。人工呼吸管理は、医師・看護師・理学療法士・臨床工学技士などのチーム医療として機能することによって、効果的に人工呼吸器装着期間の短縮・離脱成功率の向上・肺合併症の減少・医療費削減などを達成できることが明らかになってきました。そこで、当院においても、2007年10月、麻酔科の大橋一郎医師をリーダーとして、多職種からなる呼吸サポートチームを結成し活動開始しました。

活動内容は以下のとおりです。

- ①病棟回診：毎週火曜日夕方、人工呼吸器装着患者様あるいは呼吸不全患者様を対象にチーム回診。呼吸に関する病態評価・ケア内容の評価・鎮静の評価・機器の稼働状況・安全稼働チェック、病棟スタッフの相談受け付けを行っています。
- ②呼吸器関連物品の管理：人工呼吸器・呼吸器回路・人工鼻・閉鎖式吸引システムなどの選択・検討を行っています。
- ③教育・啓発活動：呼吸に関するレクチャーシリーズを月1回開催しています。



スタッフ

海外派遣報告② 【デンマーク】

福祉国家：デンマークに滞在して

糖尿病・代謝内科 肥田 和之



平成19年9月から北欧の玄関であるデンマークの首都コペンハーゲンに滞在しています。ここデンマークは人口約540万人でユトランド半島と約500の大小の島々からなりたっています。日本の面積の約1/8で九州よりやや大きい程度ではないでしょうか？私は今、コペンハーゲン中央駅から電車で北へ約15分のところに位置するステノ糖尿病センターで臨床・研究に従事しています。このセンターは糖尿病の教育研究病院として糖尿病治療はもちろんのこと、下肢外来、眼科外来等の合併症治療の専門外来および病棟・研究施設があります。さらに、糖尿病に関連する仕事に就いている様々な人を対象に優れた糖尿病教育が行われていることでも知られています。さて私は出国前に現地の情報を取得できる時間がほとんどなく、飛行機に乗り込みましたのでデンマークに到着してからしばらくは大変でした。旅行と滞在では勝手が全く異なり、身の回りのセットアップをしなければなりません。勤務先のステノを含め、私の周辺に日本人、知り合いがいなかったため、苦労の連続でした。住居、電話、電気を含め、全て契約書がデンマーク語で書かれているため、私1人では手も足も出ず、優しい秘書さん、同僚に何度も足を運んでいただき救われました。“備えあれば憂いなし”とはよく言ったものですが、十分現地の情報を把握しておくべきだったと今更ながら深く反省しています。私が所属しているグループは主に低出生体重児が成長した際の糖尿病発症リスクとその原因に関して臨床・基礎研究を行っています。研究は医者、生物学者、統計学者、

栄養士、看護師、検査技師、理学療法士など様々な分野の人がそれぞれ、研究テーマを持ち、活発にカンファレンスをし、お互いに協力しながら成果をあげています。諸外国からの留学生の受け入れも多く、朝早くから臨床・研究に取り組んでいます。言語は当然デンマーク語ですが、ほとんどの人が英語を流暢に話します。私が所属しているグループも留学生が現在スウェーデン、ノルウェーから来ていますが、彼らの母国語とデンマーク語とは方言くらいの違いのようで、なんら問題なくデンマーク語で会話しています。ここが私にとって最大の難関です。皆さん英語を上手に話せますが、カンファレンス、昼食の時を含め、英語よりやはり母国語のほうが話しやすいためかデンマーク語で会話することが多く、現時点では何を話しているか、ほとんど聞き取れず理解できません。私の隣に座ってくれる人が定期的に英語で通訳してくれて非常に助かりますが、試練の日々が続いています。昼の食事は毎日バイキングスタイルで、野菜、肉、果物等充実しており、食べ過ぎないように自分でカロリーバランスを計算し、健康的な食事をしています。デンマークは福祉国家として有名で、税金、物価は日本よりはるかに高いですが、医療処置、学校教育に関しては現在国民が負担する必要がありません。障害を持った人の補助器具なども支給され、自立を支援する教育システム、文化的な社会生活ができる保障制度が充実しています。また育児養育システム等も整っており、ほとんどの女性が働いており、出生率も伸びています。また家族との時間を大切にするため、夕方は仕事を早めに切り上げる人が多く、ここステノでは夕方5時にはほとんど人がいません。そのため遅くまで仕事をしているとあまりいい様に思われぬ面も多いですが、貴重な限られた時間でもあるため、変人扱いされながら、ほとんど私が夜の戸締りをして電気を消し家路につくといった毎日を送っています。現在真冬の時期で、日本と大きく異なる点は北欧の冬は夜が非常に長く、曇・雨・風の強い日が多いため、気が沈みがちになります。自らカテコラミンを分泌させて天候に左右されないようモチベ



昼食時の風景：昼食時は会話が非常に盛んで途切れることが全くありません。ここでデンマーク語を少しずつ覚えようと努力しています。

WORLD REPORT

Kingdom of Denmark

ーションをあげて仕事に取り組んでいます。通勤に関しては自転車通勤が発達しています。ほとんどの道路に車両、歩行専用以外に自転車専用道路も備わっています。環境にもこだわっており、車の交通量は比較的少なめで、私も自転車通勤しています。日本の一般の自転車と異なりペダルを逆回転することによってブレーキがかかるしくみになっており、慣れるまでに時間がかかりましたが、慣れると以外に便利です。以上取りとめもない話になってしまいましたが、医療のシステム体制、技術面、また日本との文化の違いを始め、学ぶことも多く、優れた面を可能な限り吸収して日本に帰りたと思います。



アンデルセン童話に出てくる人魚姫の像
(私の住んでいるアパートのすぐ近くの公園の一角にあります)。

はやり病にご用心 冬にはやる「感染性胃腸炎」

院内感染対策室長 金谷 誠久

「食中毒は夏の病気だ」と、お考えのみなさん。その常識は捨てなければいけません。冬に流行る病気の横綱と大関は、「インフルエンザ」と「感染性胃腸炎」が占めているのです。「感染性胃腸炎」を起こす病原微生物の中でも、「ノロウイルス」と「ロタウイルス」は、夏ではなく冬に流行します。(夏に多いのは、O157などの細菌によるものです)一般に秋から正月くらいに多いのが、ノロウイルス。冬の終わりから春

にかけて流行するのがロタウイルスです。どちらも小児の患者さんが多いのですが、成人も罹ります。(ホテルでノロウイルスによる成人の集団感染があったのは昨年のでした) 感染を防ぐポイントは、ズバリ「手洗い」です。それも、最近流行の「アルコール製剤の擦り込み」ではなくて、流水とセッケンによる従来からの「手洗い」です。みなさんの健康を守るため、食事の前・ケアの前後・診察の後etc.「手洗い熊」になってみませんか?

吐物の処理もご注意下さい 感染を受けるリスクが高いです

- ①汚染場所に関係者以外の人が近づかないようにする。
- ②処理をする人は使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用する。



おう吐物処理時と
その後は、窓を開ける
など換気を十分にします。

- ③おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で外側から内側に向けて、拭き取り面を折り込みながら静かに拭き取る。

★同一面ですと汚染を拡げるので注意



- ④使用した使い捨ての布やペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れ処分する。

★ビニール袋に0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れ消毒するとよい。



- ⑤おう吐物が付着していた床とその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパータオル等で覆うか、浸すように拭く。

★次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、拭き取って10分程度たったら水拭きする。

- ⑥処理後は手袋をはずして手洗いをします。手袋は、使った布やペーパータオル等と同じように処分する。



[病院活動案内]

地域医療研修室 セミナー・講演会 (3月～5月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日 程	種 別		演 者
3月18日(火)	初期治療セミナー	褥瘡	当院形成外科医長 末延 耕作
3月27日(木)	講演会	医療安全管理対策	岡山県医師会理事 小武守 研二先生 当院医療安全管理係長 佳川 浩子
4月22日(火)	初期治療セミナー	糖尿病	当院糖尿病・代謝内科 医師 利根 淳仁
5月20日(火)	初期治療セミナー	他科の先生方のための皮膚科の知識 -皮膚細菌感染症-	当院皮膚科医師 山崎 修 (平成20年4月着任予定)
5月29日(木)	講演会	医薬品管理	当院薬剤科長 市場 泰全

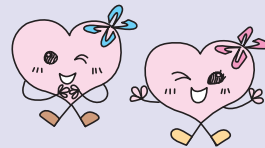
●第3回地域医療連携の夕べ開催● 地域医療連携室長 大森 信彦

昨秋の地域医療支援病院認定を受けて、1月31日、第3回地域医療連携の夕べを開催いたしました。テーマは『地域連携パスとこれからの連携医療のあり方』でした。今回は、在宅医療へのスムーズな連携を推進するために、連携医のみならず、地域の訪問看護ステーションのスタッフ、ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどの皆さんにもお集まりいただき、計230名強のご出席を得て、大変にぎやかな意見交換会となりました。ミニレクチャーとして、岡山保健所長 二宮忠矢先生より『これからの地域医療連携』というテーマでご講演をいただいたあと、鈴木美智子副看護部長から『在宅・連携医療推進に向けての看護の取り組み』と題した発表、各科医師から、現在試行中の地域連携パスの紹介がありました。来るべき「連携パス時代」と診療報酬改訂に向けて、関心を高める一助となったのではないかと思います。



●院内シンポジウム開催● 9A病棟 副看護師長 後藤 踐子

平成19年12月4日、看護部教育委員会主催で、「医療サービスの質の向上を目指す～真の医療サービスとは～」をテーマにシンポジウムを開催しました。200人を超える参加者で、大研修室は熱気一杯でした。今年のシンポジストは、院内各職場の代表だけでなく、周辺住民代表の方にも加わっていただき、様々な立場からの御意見を伺うことができ、病院理念や、日常的に行っている業務について考える良い機会となりました。来年からは、病院行事の一つとしてさらに発展させて行きたいと思います。



編集者から ●あしがき

気がつくともう節分。ということは、明日は立春だ!などと慌ていたら、バレンタインデーになっていました。単身赴任が続く身の小生ではありますが、この日には必ず実家にいる娘から宅急便が届きます。その娘ももう高校三年生。来年はくれないだろうなあ・・・。

早いもので、「ザ・ジャーナル」としてスタートした新広報誌も、今号で「満2歳」を迎えました。昨年の病院機能評価受審を契機として、

病院全体で、様々な改革が矢継ぎ早に進んだ2年間でした。3年目にはいる来年度は、「ザ・ジャーナル」にとっても、改革を維持して発展させて行くべき年になりますので、編集チーム一同、ふんどしを締めなおして頑張りたいと思います。厳しい寒さが続きます。雪も降ります。霜も降ります。みなさま、交通事故とお身体にお気をつけ下さい。(尾田 記)

ザ・ジャーナル!!

第2巻 第4号

平成20年2月25日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255
印刷:山陽印刷株式会社